

令和元年度 苫小牧市図書館協議会定例会

令和元年5月30日（木）午後2時30分
苫小牧市立中央図書館 2階講堂

【議事】

- 議長 それでは、早速議事を進めてまいりたいと思います。
今日は大きく3つありますので、まず1番目、平成30年度事業報告について説明をお願いいたします。

<中央図書館長より資料に基づいて説明>

- 議長 ありがとうございます。
それでは、まず、平成30年度の事業報告について、質疑をまとめてとりたいと思います。どこからでも構いませんので、質問やご意見ありましたらご発言ください。
私から、委員の皆さんに情報提供ですが、2ページ目の読書感想文・感想画コンクール事業というのを共催させていただいて、毎年行っています。夏休み読書感想文コンクールは、市のコンクールで入選したものを、全道のコンクールに応募します。昨年度はこの全道コンクールで、苫小牧市の児童生徒の作品が多く入りまして、胆振が結構よかったですよね。室蘭と苫小牧と登別の3市の入賞合計点数が、札幌市よりもずっと多くて、非常にいい作品が多かったんだなという感じでおりました。全道コンクールの入選作が、さらに全国コンクールに行くんですが、ウトナイ小の児童が1人、全国コンクールで入賞しまして、皇太子様、現天皇陛下と一緒に写真撮ったりしたということもありました。こういうコンクールをずっとやっているんで、だんだん質も上がってきていて、大変ありがたいなと思っておりました。
ほかどうでしょうか。どこからでも構いませんが。

- 委員 今の読書感想文コンクールなんですけど、説明資料を見ますと、児童と書いてありますが、中学生のコンクールは行われていないのですか。

- 議長 小中学生が対象ですので、資料の記載は「児童・生徒」が正しいです。中学生の作品も、全道コンクールでは2つかな、入選していますので。
事業報告のほうはよろしいですか。

- 委員 ナンバー18の「ガチャまる帰館！ In library」というのは、何かやけにおもしろそうなんですけど、どんな内容だったんですか。
- 館長 ガチャガチャを使った読書推進です。例えば本を5冊借りたらガチャガチャ1個引いていいよって言って、それでころんと出てきた中にちょっと小さい景品が入ってます。ガチャガチャの箱は男の子用のガチャまると女の子用のガチャここという2箱あるんですが、それはいつも置いているものではなくて、こういった読書推進のときだけ特別出てくるものです。ガチャまるが去年から帰ってきましたというところで、ガチャまる帰館で、In libraryという、カプセルトイを使った読書推進事業になっていまして、今年も予定しております。
- 委員 なるほど。わかりました。結構な延べ人数も出ていますし。
- 館長 みんな回したくて来てくれます。スタッフが手づくりで、段ボールで作ったものですけども。
- 議長 ほかどうですか。
そしたら、計画のほうも含めて、何かございますでしょうか。
- 委員 来館者数を広く増やしていきたいという取り組みに関してなんですけれども、いろんなイベントを工夫して、今のガチャまるとか、すばらしいなと思うのですが、今度は来館した皆さんに対して、何か持ち帰ってもらうようなサービスといたしますか、来館することそのものが図書館利用なんだろうと思うんです。例えば今の若いお母さんたちは、子どもたちに何を読んでいいかとか、何歳向けの本とか、なんでもネットで検索をして調べる方が多くって、なかなか人とそういうお話をする機会というのも、しない習慣がついているんじゃないかなと思うので、イベントのときに、何か本に関する相談事はありませんかとか、せっかく親子連れの方が来たときに、本に関する相談受け付けますよみたいな窓口があるといいかなって、とても思っています。
- 館長 児童コーナーのところに一言何か添えるとか、看板などを出しておくなど、児童担当のほうに申し伝えます。
- 議長 ほかどうでしょうか。
重点事業の部分で、中学校対象の取り組みが2つも入って、私は大変ありがた

いなと思っております。いろんな場で、中学校の読書が大変なんだという話をしているんですけども、ブックちゃんの中学校セットをつくったんですけども、利用が伸びないというあたりは、学校や学校図書館教育研究部会としても、もう少しできることがあるなと思っておりますので、中央図書館に協力するために、宣伝に努めたいなと思っております。

小学校では、もうどの学校も大体朝読セットを使っているの、子どもたちは中学校に上がっても自然に受け入れられるはずなんですよ。どちらかというと、中学校の教員のほうが、まだ使ったことがないので、使いにくいものというイメージがあるのかなという気がしますので、宣伝をしなきゃだめだなというふうに思っておりました。こういうあたりで、来年中学校の読書活動の足がかりの一つになればいいなというふうに思っています。

○委員 今の重点事業のところ、子育てタイムの実施というので、たしか昨年図書館協議会の中でも、小さい子どもを連れた親御さんがなかなか来づらいとか、気にするんだけど、どうにかならないだろうかって話に対して、今回アンケートもとっていただいて、実際にやろうというふうに動かれていることってすごくいいことだなと思います。実際にやってみてうまくいかないこととかもあるかもしれませんが、とりあえず一回やってみて、どうなのかなというふうな進め方ってとってもいいと思うので、ぜひこういう形で進めていただけるといいなというふうに思いました。ありがとうございます。

○議長 ほかいかがですか。

○委員 今の関係のところだと思うんですが、BGMを流すこともアンケートで聞いているんですけど、BGMを流す効果といいますか、何を狙ってBGMを流すということなのでしょうか。

○館長 ご意見箱のほうに、BGMを流したらどうかという意見がたまにありまして、実際に一度エントランスのほうで流してみたんですけども、それについては、反応がいいも悪いも、全くありませんでした。BGMを流したのは、もう2年ぐらい前ですけども、じゃあ、中だとどういうふうになるのかなというのがわからなかったの、どういうふうに皆さん感じてらっしゃるかなということ伺いたくてとったところになります。

○委員 ということは、図書館側としてはかけたいという考えがあるわけではない。

○館長 はい。ほかの全国の図書館でも、せせらぎとか、鳥の鳴き声とか流しているところはありますが、実際それについて、流した後どうなるのか、皆さんどういうご意見かなというのを聞いてみたかったというところがございます。

○議長 ほかいかがですか。

○委員 アンケートに関してなんですけれども、以前も話したことがあるかなと思いますが、来館者の方に対するアンケートということで、設問の内容も、とても充実したものであるし、皆さんの声を上手に拾われているなと思っております。回答を見ましても、とても的確な回答をされていると感じるんですが、来館者のみではなくて、来館されない人の声というの、やはり拾っていかなくてはいけないのかなと思うんですね。来館したくても来れない人、どうしたら来館できるのか、または来館しなくても、この図書館という資源を活用できるのかというところを、これから高齢化がどんどん進んでいく状況の中で、とても大事な部分になっていくのではないかなと思っております。核家族も進んでおりますので、小さい子を連れて外に出ていく、人とかかわるのが苦手なお母さんというのが増えてきておりますので、そういう方たちにも図書を届ける、資料を届けるという方法を、今後考えていく必要があるのではないかなと感じているので、よろしくお願いします。

○議長 関連してとか、ほかでもいいんですけど、ありますか。

○委員 今感じたことなんですけど、やっぱりアンケートの中で、お母さん、子ども連れの方のうるさくないかどうかのアンケート、とても興味深く見ました。実際、今、委員がおっしゃったとおり、なかなか子どもを連れていくというのはハードルが高いと思います。皆さんに迷惑かけたらどうしようと感じている方もいらっしゃると思いますので、やはりアンケートのような意見もありますよということを、来られていないお母さんにどうしたら伝えられるかなということを感じました。今ネット社会なので、皆様こういう気持ちでいるから、お母さんたち来てくださいという感じで発信していただけたら、もっと来やすくなるんじゃないかなと感じました。

○館長 ホームページの更新も、今までと違った形で考えておりますので、今いただいたご意見で、見やすい、対象、求める意見がすぐ見られるようなとか、そういったところもちょっと工夫をするようにいたします。

○議長 ほかどうですかね。よろしいですか。
それでは、事業報告と計画を終えまして、3つ目の議題ですね、中央図書館の評価と点検に移ります。
今年はいろんな評価、点検が、計画のほうがたくさんあったんですけども、前回、2月には図書館基本計画の5年分の評価と点検がありました。あのときは、図書館側の自己評価には、AとかBとかの評価があって、それがどうかというのもここで意見をまとめましたけれども、今回の評価と点検は、そういう長いものではありませんので、AとかBとかというふうにまとめる部分はありません。図書館でつくった自己評価について、その自己評価がどうなのかという視点で評価する点、改善を要する点があるんじゃないかというところでご意見をお伺いしたいと思っています。
あらかじめ評価シートをお渡しして、そこに何点か書いてあると思うんですけども、今日のこの意見交換を終えまして、さらに書き足す部分があれば書き足していただいて、本来それをすぐに集めて、この場でまとめられればいいんですけども、時間的に難しいので、前回や前々回にも行ったように、一旦それを私のほうで預かって、それを文章にまとめたものを、委員さん方に、こういうふうにまとめましたというものを見ていただいて、箇所修正していただいて、中央図書館のほうにお渡しするというふうな形で進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
それでは、まず、評価と点検について、ご説明をお願いいたします。

<中央図書館長より資料に基づいて説明>

○議長 ありがとうございます。
まず、この基本目標1番、情報と知識を集積した知の情報拠点としての図書館について、ご意見をお願いいたします。

○委員 アンケート結果をととても興味深く読ませていただいていたいました。寄せられたニーズなどに対しては迅速な対応、丁寧な対応、とてもすばらしいなと感じました。ただ、先ほども申しましたように、声にならないニーズというのを拾っていくという部分に関して、今後ますますご尽力いただけたらうれしいと感じております。以上です。

○委員 私は、先ほども少し似たようなこと言ったんですけど、インターネットによる周知が低いことについて少し気になりまして、このインターネットによる周知というのが、実際に図書館に来ていない人たちが、唯一今見られるものなのか

なというふう感じておまして、新たな利用者につながるものがこのインターネットなどで、アクセス数などが上がるように今後とも内容を創意工夫していただきたいなということを書かせていただきました。

○議長 ホームページがリニューアルされるということで、どういうふうになるのかすごくわくわくしますね。

ほかいかがですか。きょう欠席されている方2名分の資料がございますね。評価する点というところで、情報サロン、AVブース、電子図書館が目標達成となって大変な努力を感じますと書かれていますね。このICT環境の整備については非常に達成率が高くて、私も同感だなというふうに思っておりました。やはりPR、それから来館した方々の利用も含めて、このインターネットとかICTという部分は、これからますます重要なのかなと思うんですけども、そういうあたりの取り組みが、ホームページのリニューアルを含めて、しっかり行われていけばいいかなというふうに思います。

○委員 すみません。まず、蔵書冊数が計画に対してしっかり達成できているというのはよかったなというふうに思っております。

1点、どこで聞けばいいのかわからないんですけど、貸出冊数のところが確かに落ちていて、貸出点数の件数は全館って書いてありますよね、全館って書いてあるということは、中央図書館以外の図書コーナーも含めたということですよ。そうすると、中央図書館に、例えば来づらくて、図書コーナーに行かれる方って、貸出冊数を見てみると、結構いるんですよ。どうだろう、実績を見ると全体の4割ぐらいですか、こんなに図書コーナーに借りに行くんだと思うくらいあったんですけど、要覧の3の8、例えばここら辺を見て、ざっくり計算すると、4割方が図書コーナーで借りているのかなというふうに思うんですね。そうすると、図書コーナーを結構しっかりやらないと冊数は伸びないのかなというふうに思っていて、図書コーナーについては、誰がやるんだろうということで、例えば中央図書館として、ある程度方針を持ってやられるのか、それとも市としてやられるのか、そこら辺はどうなっているんですかね。

○議長 そのすみ分けは私も確認したいなと思っています。

○部長 まず、図書コーナーについては、市民生活部というところが担当になります。中央図書館の担当は教育委員会ですので、所管がまず違います。ですので、その図書コーナーの管理運営というところは教育委員会ではなくて、市民生活部の部分になります。ただ、図書コーナーは、本の蔵書ですとかサービスの提供

については、中央図書館に司書がおりますので、相談があれば中央図書館でのやり方などを図書コーナーのほうにお伝えするといった部分があります。そこに置いてある蔵書に関しては、中央図書館の蔵書になりますが、図書コーナーの管理運営は、市民生活部がやっています。

○委員 例えばそこで貸し出しが増えるような、企画やいろんなイベントというのはどこが考えるんでしょうか。

○部長 まず、市民生活部が考えます。

○委員 なるほど。そうすると、部長がおっしゃられましたけど、やはりある程度、この全体を伸ばしていくというために、中央図書館と図書コーナーがもっと協力、もっとと言ったら、そもそも協力しているのかもしれないですけど、しっかり協力をして、中央図書館には来づらいけど、近くの住吉とかだったら行けるとか、そういう人たちのために、もっと、貸出冊数が伸びるような何かされるといいかなというふうに思いますね。

○部長 中央図書館のほうからも司書が出向いて、お客さんに対するサービスの提供の部分等の面から相談を受けたりしているといったところにもなっています。

○委員 集まって何かやったりしているんですか。

○部長 図書コーナーの職員と中央図書館の職員が集まって情報共有する場があります。

○委員 思ったより図書コーナーから貸し出しがすごく伸びているというか、出ているんだろうというふうに感じました。ありがとうございます。

○議長 遠くの中央図書館よりも近くの図書コーナー、絶対足運びますから、実は一番身近なところなんですよ。そこが、組織が違うというところが、すごくやりづらさを感じるというか、あちこち行ってみると、結構雰囲気も違うんですよ。子どもたちがたくさん集まるような掲示や本の置き方しているところもあれば、そうでもないなという感じのところもあったり、特徴はあっていいと思うんですけども、何か寂しいなって思うところもあったりするので、そういうところも改善されていくと、また数が変わってくるのかなというのは思いますね。何とか、中央図書館のほうからのアプローチとか指導とか、支援が行き届くような流れになっていけばいいなというふうに思います。

それでは、1番目は大体いいでしょうか。

次に、2番目の読書活動推進・支援拠点としての図書館というところでお願いします。

○委員 この分野はほとんどわからないので、すみません。先ほど報告でもありました、中学校のほうが全然進んでないということでしたので、それが数字も低くなっている理由なのかなと思って、達成率が低いのかなと思いましたが、今後中学校のほうを改善していくというお話がありましたので、そちらのほうをやっていたらなと思います。

○議長 ありがとうございます。ほか記入された方いらっしゃいましたら、随時お願いします。

○委員 中央図書館だったり、図書コーナーというのは、どちらかという親御さんと子どもたちが一緒に出かける場所というイメージがあるんですけど、学校図書館というのは、全ての児童生徒が平等に受けることのできる公共サービスではないかなと思って、日々大切にしたいなと感じている者の一人なんですけれども、この学校との連携に尽力されているという点では、とてもよいことなので、今後ますます推進していただきたいと思っています。

ただ、図書館統計にもちょっと絡んでくるんですけど、やはり気になったのが、先ほど館長のほうからも説明がありましたけれども、年代別のうち7歳から12歳、この新規登録、利用登録数ですとか、13歳未満の個人利用者数というのが減ってなっているのが、全国的に落ちてきているというのはご説明も聞きましたが、単純に少子化の影響によるものなのか、ほかに原因があるのか、またはこの学校との連携という部分でそこをカバーしていけるものなのか、とても気になった部分でありましたので、今後検証を進めていただきたいなと思いました。

○議長 ほかいかがですか。

学校との連携はたくさんあるんですけども、私の立場から考えると、学校ともちろん、私たち教員の研究団体である学校図書館教育研究部会との連携も、学校との連携とは別にたくさんしていただいているんですよ。それもすごく回数や中身がいろいろ充実してきて、そんなことも大変評価したいなというふうに、いつも思っております。このペースでこれからも連携していきたいなと思っています。

中学生のてこ入れで、次年度少し数に変化が出てくるといいなと思っています

ので、その辺の数字を、皆さんも注目してほしいなと思っています。
欠席された委員も2番目のご意見がございましたね。大体これ評価する点に書いてくださっていますね。

○委員 この2番目の録音図書蔵書件数が目標に対して残念ながら大きく達成率が低いのは、何か理由があるんですかね。ほかのは結構いろいろうまくいっているような気がするんですけど、これだけかなり低い気がするんですけど、何かやりづらいものとか、逆にニーズがそこまでないのか、これは何なんですかね。

○館長 こちらの録音図書の蔵書点数につきましては、カセットテープのものが含まれていまして、指定管理になる前に除籍をしており、劣化等も進みやすい資料なので、そこから増やしていくのもなかなか難しかったなというところです。

○委員 いまだにカセットですか。

○館長 いえ、今はデジターというCDのような形になっていたり、あと、サピエという、クラウド上にデータがたくさんあるサービスで、ネットからダウンロードしてCDにコピーして提供するというところで補填をしています。その目標を立てたときの状況と今の録音図書に関する状況に、ずれが出てきているというところは、私も思っております。

なので、実績が達成できなかったという数値にはなっているんですけども、利用者の方への提供として、サピエを使ったダウンロード形式を使った資料提供というところで補填ができたり、例えば今まではファックスとか電話とかで遠いところの図書館にしかない録音資料を郵送で借りていたものを、今ではサピエでダウンロードして、すぐ提供できたりということもあります。やはりそういった形では、5年前と今の状況と少し違いますので、そういったダウンロード資料で、こちらの実績に満たなかった分は補填できているかなというふうに思っております。

○委員 なるほど。わかりました。

○委員 これに関してなんですけれども、仕事上、高齢者の方とお話をする機会が多くて、皆さん、本が好きだったんだけど、目がもうだめで読めないっておっしゃいます。図書館に大型の字の本もありますし、朗読のサービスもありますよとお伝えするんですけども、なかなか図書館まで足を運ぶということが難しかったり、その年代の方たちというのはダウンロードとか、そういうことがまず

生活の中に存在しない世代の皆さんなので、例えば包括支援センターとか、あとは高齢者施設を運営されている方たちに何とかそこをアピールすることで、利用の世界が広がっていくのかなって今聞きながら思いました。

○館長　　ちょっと補足というところで、ダウンロードのところに関しては、図書館スタッフがパソコンにダウンロードし、デイジーというCDのような形にしてご提供しています。ただし、図書館のほうにサピエを個人登録したい、自分のうちでダウンロードしたいという方の両方には対応できていますので、そういった形にはなるのですが、包括支援センターのほうには、朗読奉仕団を通じてお伝えできるかなとも思いますので、そちらの周知を努めていきたいと思えます。

○議長　　ほかいかがですか。
それでは、次、3番目に移ります。市民が利用しやすく、役立つ図書館について、それでは委員、お願いいたします。

○委員　　評価する点として、アンケートを見させていただいて、多くの方たちから職員の方たちの対応の早さだったり丁寧さ、わかりやすさだったり、とてもよい評価をいっぱい記載されていて、それが市民の皆さんにとって、今利用しやすくなっているという、一つの指針だなと思って見ていて、とてもいいかなと思えました。

もう一つ、改善を要する点として、先ほどからお話に出ていた新規登録者の中で、小・中学生、7歳から15歳のところの落ち込みが、利用、登録者の数の減少がちょっと多いかなと思えました。これは単純に、いろんな要素がきつと入っているんだろうなと思うんですけど、やはりこの年代の活字離れというか、図書離れというか、本離れが、今いろんなところで言われている中で、図書館の登録というところでも意識を持ってもらいたいかなというところで、改善策を考えるととってもなかなか難しいかもしれないんですけど、少しでも何か改善点を探っていただけたらいいかなって思っています。以上です。

○議長　　ありがとうございます。ほかにはありませんか。

○委員　　レファレンス件数なんですけど、平成24年の基準値に比べると倍近くになっているんですね。何かやり方を変えたんですか。以前の受け方とか、窓口だったりとか、何らかから変わったんで、これだけたくさんのレファレンス件数が上がっているということなんではなかろうか。何か変わった、変えたんでしょうか。

か。

○館長 初めて年度の初めのときに少し取りこぼし等々があったので、きちんとつけるようにというところで、そういったところではあります。

○委員 指定管理が始まる前と指定管理が始まってから変わったんでしょうかという質問です。

○館長 結果はとるようになって、あと読書相談とかいろいろありますけれども、そういったところを、きちんと忘れないでとるようにというところは変えましたけれども。

○委員 とるようというのは、カウントの仕方を変えた。

○館長 そこは、多少変えました。

○委員 例えば相談しやすいような体制をとったとか、窓口をわかりやすくしたとか、いろいろ、そういうことではなくて、ですね。

○委員 もしかしたら指定管理になってからの図書館の職員の方の対応がとてもよくなったという市民の皆さんの評価と、何となくリンクするような気はいたします。聞きやすくなったとか。

○議長 聞きやすい感じがね。

○委員 以前は、私、指定管理になる前に通っていたんですけども、カウンターの皆さんはお座りになって、下を向いている感じが多かったんですけど、今はもう来たらすっと立ち上がって、対応が早いというのはとても感じているところなんで、そういう部分も関連があるかなと思います。

○委員 そうですね、僕もそうなんじゃないかなと思って聞いたんですけど。

○委員 きっとご自分からは言いづらい。

○議長 それもあり、これもありというところですね。

- 委員 なるほど。わかりました。
- 館長 あとは、レファレンスの窓口のところとかは必ず人がいるようにというふうにしたところと、児童コーナーでもいるようにスタッフを配置したということ、両方あるかと思います。
- 委員 わかりました。ちゃんと見てなくて申しわけないですけど、レファレンス窓口とか書いていますか。僕そうやって書いてあったら近寄らないだろうなと思うんですけど、何て書いてあるんですか。相談窓口とか書いてあるんですか。
- 館長 カウンターにそこは。
- 委員 それぞれのカウンターに、そういう相談があったら、レファレンス相談というふうに受け付けるということですね。わかりました。
- 議長 ほかどうですか。よろしいでしょうか。
それでは、4番目、郷土の歴史と特性を大切に、豊かな市民文化を創造する図書館というところでどうでしょうか。
- 委員 イメージで話してしまっているかもしれないんですけど、2階の利用が1階に比べて人がいないように感じています。私も利用していて、2階は特別に勉強する人が行くところかなというイメージがとてもあって、なかなか階段を上って2階の、いわゆる郷土資料のところまで、なかなか行き着かなくて。探して探してなくて聞いたら、あ、2階ですよと、案内していただいたことが何度かあったんですよね。身近なものが、物語になっていたものとかも2階に置いてあったので。それで前にも言ったんですけど、あの階段のところ、もっと何か上りやすいというか、上にもいろんなものや読むものがたくさんあるよというような案内があったら、上にあがって、こんなものもあるんだという発見がたくさんあるんじゃないかな。もうこれだけたくさん集めていただいて、多分皆さん、興味のあるものがたくさんあるだろうけど、この郷土資料がどこまで活用されているとか、どの程度借りられているのかというのがわからないんですけど、多分そういうふうにしたら、もっと皆さんが目にとまって、地元のことなので、もっと身近に感じるような図書館になるんじゃないかなと思いました。何か少し階段が寂しいです。
- 館長 今ちょうど宮沢賢治の取り組みを、展示を組み合わせ、入り口から入ったガ

ラスのところに配置しています。そういった資料も、2階にありますよというPRの一つでは置いているんですが、確かに階段の上は何があるんだろうというところを気にして、どういうふうにできるかというところを検討してまいります。

○議長 郷土レファレンス件数ってあるんですけど、先ほどのレファレンス件数の中に入っている数字なのか、また別なカウントなんですか。

○館長 レファレンスの件数は中に入っています。

○議長 中に入っている数字ですか。郷土レファレンスというのは、郷土に関する内容のこと。2階でということですか。

○館長 2階と1階でとっています。

○議長 ああ、なるほど。内容が増えているということですね。利用に関することはもちろんなんですけども、ホームページから見られるデジタルコンテンツも、先ほどの第一洋食店の山下十治郎さんの話とか、三星の創業者の話とか調べて作ってありますよね。そんなのもこれからどんなふうに展開していくのかなというふうに楽しみにしていました。そういう図書館が情報をまとめて私たちに知を与えてくれるという、そういうコーナーというか、動きがすごく、文化の拠点だなという感じがしていいなと思っていました。郷土資料の部分で、何かほかにありますか。

○委員 郷土資料ってどうしても行きづらいんですよね、正直なかなか入りづらいところがあるんで、やはり企画ものとか、少し人を呼びやすいようなものを幾つかやっていくといいのかなというふうに思っていました。たまたまそう思っていたら、苫小牧は紙のまちだと思うんですけど、紙フェスが今年、最後らしいんですね。だから、ずっと歴史的にやっぱり紙のまちでやってきていて、日本製紙が製紙やめるといった時代の変化の年でもあるんですけど、そういう企画とかも少し何か入れていただけるといいのかなって、紙フェスやめるんだ、残念だなと思いながら見ていたんで、何か企画を少しずつ入れていくと少し人が来るのかなと思いました。

○議長 あとはよろしいですか。

○委員 苫小牧市内に現存する文化財ですとか、実物を見れる文化財ですとか、美術博物館の所蔵品に関する書籍なんかともリンクしたイベントがあるといいかなと思ってしますので、検討をお願いします。

○議長 あとはいかがですか。よろしいですか。
それでは、最後、5番目に行きます。人と本、人と人の出会いを広げ、ゆとりとぬくもりが感じられる図書館についてお願いします。

○委員 ちょうど自己評価のところにも書かれているんですけども、市内の各施設と連携して市民の課題解決とか、憩いの場として機能を高めていきたいというふうに書かれていまして、たしかこの間やった5年間の計画のときにも、たしか図書館として言われていましたけど、図書館は本を読んだりとか、借りたりとかという機能だけではなくて、いろんな多目的な施設になってきたんだという中で、いろんな、ほかの施設との連携というのは重要になってくると思うんですよね。まさにここで書かれているとおり、やっていただけるといいなというふうに思いました。

あと、研修事業のところ、接遇向上だとか危機管理、専門サービスのところで、今アンケートにも非常に高い評価をいただいているわけなんで、しっかりこういうのもやられているんですけどね、前も申しましたけど、やはりやるからには、その一人一人のレベルというのも向上に向けて、今の、例えばあなたは全部できたら丸になるんだけど、半分だよとか、4分の3くらいまでは行ったよねという、何かわかりやすいような目標ですとか、現在のその人の能力、能力と言ったら少しくつくなるかもしれないんですけど、どの程度、あなたはできるんだから、このレベルまで持っていこうねというようなことを、実際に研修をやりましただけではなくて、そういうような評価をしながら、サービスだとか知識だとかが上がっていくようにやられると、今の高い評価がずっと続けてもらえるのかなというふうに思いました。

○議長 ありがとうございます。ほか、5番目でご意見のある方いらっしゃいませんか。

○委員 講座とかこういう講演等のニーズがとても伸びていて、皆さんが内容とかいろんな工夫したり、周知している成果だなということを感じたので、それだけ言っておきたいなと思いました。

○議長 参加者数ですね、そうですね、はい。

○委員 やはり一人一人の市民の皆さんにとって、生涯学習の拠点としても図書館の役割は大きいと感じています。資料提供にとどまらず、ボランティア等の活動や、市民団体との協働という点においても、人材育成の一翼を担っておられるなど、そこはとても大きな評価を感じます。

あとは、先ほどから何回か高齢者のことばかり言っているんですけど、高齢者や、子育て世代。そういう市民へのサービスの提供のあり方を考えるときに、この市民の力やボランティアの力など、こういうものをうまくあいに取り込んでいって実現していくという方法も検討してはいかがかなと思っていました。

あと、最後に一つ、朗読の対面サービスってありますが、あれはここに来館した方に対してサービスをする形ですか。

○館長 利用者の方から希望の連絡が来て、それを朗読奉仕団におつなぎして、それぞれ日にちを決めて図書館に来ていただいております。

○議長 ほかがいかがですか。よろしいですかね。

そうしたら、一通り、1番目から5番目まで意見を述べていただきました。それで、今日この評価シートを全部書き終わられる方は書いて置いてほしいんですけども、私も持ち帰りたいなと思ってますので、持ち帰って書き加えて、前のように、事務局のほうに郵送という形をとれますので、評価シートの記述についてご協力をお願いいたします。それらをもとにして文章にまとめていきたいと思っております。そういう形で今後進めていきたいと思っております。

それでは、本日の議事は、これで終了です。皆様のご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

閉会 (午後16時15分)

<出席者>

○委員

松井操人 会長
深澤治稔 副会長
一谷誠子 委員
伊藤博之 委員
鈴木一恵 委員
原口祐子 委員

○事務局

教育部 部長
同 次長
生涯学習課 課長
同 主幹
同 専任主事
同 主任主事
中央図書館 館長
同 副館長

<欠席者>

○委員

地白佳代子	委員
辻直人	委員
橋本久美子	委員
三上剛	委員